

自治研50年の歴史

1957年に第1回自治研全国集会在山梨県甲府市で開催されて以来、50年の月日が流れました。自治研活動が始められた背景は何だったか。

それは昭和30年代に入り、全国的な地方財政危機を迎え、各自治体では行政施策に影響が出始める中、「私たち地方公務員は、本当に住民のために役立っているか、必要とされているか」が市民から問われたのでした。

その第1回自治研全国集会で、**「職場から見た自治体行政の実態」**「住民との結合を阻害しているものは何か」等の分科会が設けられ、仕事を通じての改革運動のスタートとなりました。

やがて1961年の第5回静岡自治研では、「地方自治を住民の手に」を基調テーマに掲げ、その後様々な政策提言を行っていきま

自治研全国集会から多くの改革が

現在どここの自治体でも当たり前のように行われている「ごみの分別収集」は、現場で働く清掃労働者からの問題提起を受け、市民を巻き込んだ議論の中から「分別」という概念が生まれ、世界的にも

ごみの分別収集も

四日市公害の告発も

急病人の夜間・休日診療も



そのきっかけは

自治研活動

からだだった

北海道自治研

改革の予感… 創ろう、市民自治のゆたかな社会

稀有な「ごみの分別収集」が全国に広まり、定着していったのです。

また、高度経済成長時代の産業最優先主義を糾弾する「四日市公害問題」や、いま多くの自治体で実施している「急病人に対する夜間・休日の救急医療体制」も、50年に及ぶ自治研活動の中から生まれていったのでした。

そして…

「地方財政危機の中で、地方公務員は本当に住民のために役立っているのか」から始まった自治研活動は、いま半世紀の時を過ぎても、全く同じテーマを私たちに突きつけています。

「財政難だから、公務員をもつと減らせ」「役所の仕事の多くは民間でも出来るのではないか」…

ダイナミックな議論と交流を

こうした声に正面から向き合

い、組合員、職員、市民、議員、そして多くの関係者が集まり、「公共サービスのあり方」「地域の公共の力」について、ダイナミックな議論を展開するのが「北海道自治研」です。

「三位一体の改革」で、全国の自治体財政は、どうなってしまうか。

「合併」は住民に何をもたらしたか。

「市場万能主義」で「地方の格差」は今後どうなっていくのか。そもそも「地域公共サービス」とは何か。

そして、「夕張のいま」は…

多くの成果と歴史を背負った「自治研全国集会」は、全国から集う仲間と、北海道から新しい全国展開の運動を導き出すことが大きな任務です。

「北の大地で、とことん学ぶ」—— 10月、北海道で、お待ちしております。



出会いがはぐくむ
「地域の公共の力」